

27. 多職種連携教育部会^{*1}

春田 淳志^{*2}（部会長・慶應義塾大学医学教育統轄センター）

多職種連携教育部会は2020年7月からオンラインミーティングを2-3カ月おきに活動について話し合い、以下の3つの活動を行った。

1. オンラインによる多職種連携教育の事例報告

情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）を活用した多職種連携教育のノウハウを共有するために、低学年を対象にした対面授業からオンラインに変更した教育、大学間多学部合同で実施した半日のTBL（Team based learning）形式の教育、3日間で行ったPBL（Problem-based learning）形式の教育に関する3件の事例報告を行った。ICTを活用した多職種連携教育の開発の参考になったとの感想が、複数の学会員から寄せられた。

2. 多職種連携教育に関する

テーマ型学習コミュニティの構築

多職種連携に関わる関心事や課題を学習テーマとしてとらえ、テーマ型学習コミュニティをゆるく構築するオンラインイベントを1-2カ月に1回程度で開催した。大学や養成校の教育、現場での多職種連携に関する雑多な相談事・連携時の困難に対する折れない心やアイデアの萌芽につながることを目的とした。オンライン多職種連携ゆるカフェと称し、これまで2021年6月2日、7月8日、日本医学教育学会大会の7月31日、9月6日、11月8日にZoomを使っ

たワークショップを開始した。参加者の満足度は高く、「多職種連携教育プログラムの立ち上げ方やそのための普段の人間関係などの重要性をはじめとした貴重な意見をうかがうことができました。久しぶりに、心から楽しいと思える学習会に参加することができました」等の感想が得られた。

3. 多職種連携と医療安全

医療を安全に提供する能力はどの医療職にとっても欠くことのできない能力であり、それを実施する上でも多職種連携は不可欠である。しかし、部会ではマニュアルなどに準じる医療を安全に提供する能力は、場によって変わり得る診療・ケアの連携パターンと異なるような印象を受けていた。そのため、医療安全と多職種連携教育との関係性についての精密化や複層的理解を進めることを目的に、医療安全やその教育の責任者であるエキスパートにインタビュー等をすすめて、部会としての意見をまとめることを計画している。

今後も学会員等への報告、他の学術団体との協働を通じて、多職種連携教育の価値について共に考えていきたい。

副部会長：安井浩樹（担当理事）、部会員：伊野美幸、内山靖、加藤博孝、前野貴美、後藤亮平、内藤知佐子、後藤道子、野呂瀬崇彦、吉見憲二、石川さと子、大槻眞嗣

^{*1} Interprofessional Education Subcommittee

^{*2} Junji Haruta